北日本精機株式会社
（Kitanihon Seiki Co., Ltd.）

銘柄コード	-
法人番号	9430001048251

＊は選択開示項目

日本標準産業分類	コード	項目名
中分類	25	はん用機械器具製造業
細分類（主たる事業）	2594	玉軸受・ころ軸受製造業
エネルギー管理統括者	【役職】　工場長 【氏名】　横須賀 紀昭	

エネルギー総使用量	143,174 (160,174)	GJ	3,694 (4,133)	kℓ
前年度エネルギー総使用量			4,199	kℓ
非化石エネルギー総使用量＊	18,312	GJ	472	kℓ
調整後温室効果ガス排出量	11,072	$t\text{-}CO_2$		

【エネルギーの使用の合理化】

主たる事業におけるエネルギー消費原単位※注（2023年度実績）	-	原単位分母 -			
	主たる事業の構成割合	100.0 (100.0) %			
事業者全体のエネルギー消費原単位対前年度比	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		99.7	99.7	95.1	98.3
事業者全体の5年度間平均原単位変化（%）	98.2				

※ 主たる事業は、必ずしもエネルギー消費量の多寡で決定されるものではなく、日本標準産業分類の考え方に基づき各事業者が決定したもの。

【調整後温室効果ガス排出量の算定に用いた認証排出削減量等の量】

種別＊	合計量＊	
非化石電源二酸化炭素削減相当量	2,229	$t\text{-}CO_2$
-	-	$t\text{-}CO_2$
-	-	$t\text{-}CO_2$
-	-	$t\text{-}CO_2$

【電気の需要の最適化】

主たる事業における電気需要最適化評価原単位（2023年度実績）＊	-	原単位分母 -			
DR実施日数＊	0				
事業者全体の電気需要最適化評価原単位対前年度比＊	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		99.7	99.9	94.9	98.2
事業者全体の5年度間平均原単位変化＊	98.2				

【非化石エネルギーへの転換】

電気の非化石比率	事業者全体で使用する電気				
目標（2030年度）	59.0%				
直近5年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					44.0%
目安設定業種	-		-		
目安（2030年度）	-				
	-				
目標（2030年度）	-				
直近5年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					-
目安設定業種	-		-		
目安（2030年度）	-				
	-				
目標（2030年度）	-				
直近5年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					-

【ベンチマーク指標の状況（合理化）】

ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	

【取組の概要：業界の事情等を考慮した取組について（定性的事項）】

（自由記述欄）

１．エネルギーの使用の合理化に関する事項

当社では、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを運用し、持続可能なエネルギー使用を推進しています。
毎月エネルギー管理委員会を開催し、エネルギー使用状況の監視と改善策の検討を行っています。
特に、デマンド監視による使用電力の見える化を実施し、エネルギー消費の効率化を図っています。
また、コンプレッサーや空調機器などの設備を高効率型に更新し、エネルギー消費の削減に努めています。
さらに、照明のLED化も進め、必要に応じて人感センサーを設置することで、エネルギーの無駄を最小限に抑えています。
これらの取組の結果、当社は事業者クラス分け評価制度で8年連続「Sクラス」を達成しています。

２．非化石エネルギーへの転換に関する事項

非化石エネルギーへの転換の一環として、太陽光発電設備の設置を行いました。
これにより、再生可能エネルギーの利用を拡大し、CO2排出量削減に貢献しています。
また、非化石証書も取得し、非化石エネルギーの使用比率を高めています。

必読：本開示シートを閲覧するにあたっては「省エネ法定期報告情報の開示制度手引き」を参照お願いします

【参考情報】

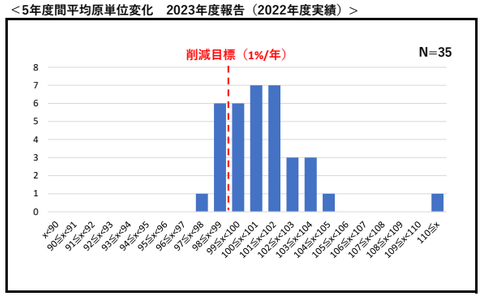
＜業界の特色＞

はん用機械器具製造業は、はん用的に各種機械に取り付けられるボイラ・原動機、蒸気機関、ポンプ・圧縮機器、一般産業用機械・装置等を製造しています。生活の中でよく見かけるエレベータ・エスカレータ、小売店の冷蔵ショーケース等、製品は多岐にわたります。
はん用機械器具製造業では、2022年度において国内の産業の0.6%のCO2を排出しています。業界ではエネルギーとして主に電気を使用しています。高効率機器の導入等により省エネルギーに取り組むだけではなく、燃料を重油からCO2排出係数の低いガスに転換することにより地球温暖化対策を進めてきました。
製造している冷凍空調機器については、オゾン層を破壊する冷媒から代替冷媒へ転換が進められてきましたが、現在は代替冷媒の削減を進めるとともに地球温暖化係数の低い冷媒を使った冷凍機を開発し製造することにより、地球温暖化防止に貢献しています。

＜定期報告書データに基づく業界毎の集計値＞　注：エネルギー使用量のシェアが全体の0.03%以上で、事業者数が 10 件以上の業種細分類について集計

2594　玉軸受・ころ軸受製造業		2023年度報告（2022年度実績）		
		平均値	中央値	最大値
エネルギー総使用量	kl	15,156	5,064	106,341
非化石エネルギー総使用量	kl			
調整後温室効果ガス排出量	$t\text{-}CO_2$	27,007	8,858	212,627
DR実施日数	回			

＜5年度間平均原単位変化　2023年度報告（2022年度実績）＞



【取組の概要：カーボンニュートラルに向けて】

（自由記述欄）

１．自由記述欄 （カーボンニュートラルの実現等に資する事業者独自の取組や革新的技術に係る研究開発等の取組について）

当社ではカーボンニュートラルの実現に向けて次の目標を設定しています。

『地球沸騰化による「気候危機」回避のため、2050年カーボンニュートラルの達成に向けて、一般社団法人日本ベアリング工業会が掲げる目標である「2030年度にベアリング製造（Scope1、2）におけるCO2排出量の2013年度比38%削減」を目指します。さらに50%削減の高みに向けて挑戦を続けます。』

この目標を達成するため、当社は以下の取組を実施します。

1.太陽光発電設備の追加
再生可能エネルギーの利用を拡大するため、太陽光発電設備の追加設置を検討しています。
これにより、クリーンエネルギーの供給を確保し、CO2排出量の削減に貢献します。
また、コーポレートPPA契約も検討しており、これにより長期的なエネルギーコストの安定化も図ります。

2.コンプレッサーの使用電力量を削減
全社の使用電力量のうち大きな割合を占めるコンプレッサーの使用電力量を削減するためにエアーリークカメラを使用することでエアー漏れ箇所を特定して修繕を行っています。
これにより、無駄なエネルギー消費を削減し、全体の使用電力量を低減しています。

3.梱包資材の変更
環境負荷を軽減するため、製品の梱包資材を繰り返し使用可能なものへ変更しました。
これにより、廃棄物の削減と資源の有効活用を推進しています。

4.非化石証書の取得
その他、様々な取組を実施した上でも目標値に届かない場合は非化石証書を取得し、目標達成を目指します。

これらの取組により、当社は持続可能なエネルギー利用を推進し、環境負荷の軽減を図っています。
今後も、環境保護と経済成長の両立を目指し、さらなる努力を続けて参ります。

２．関連リンク

北日本精機株式会社	:	https://www.ezo-brg.co.jp/
8年連続「Sクラス」達成	:	https://www.ezo-brg.co.jp/news/detail.php?eid=00017
	:	